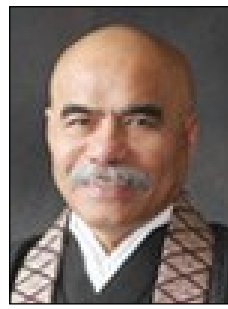




本派本願寺羅府別院 輪番法話



輪番 ウィリアム ブリオネス

慈悲

今生に、いかに、いとおし不便とおもうとも、存知のごとくたすけがなければ、この慈悲始終なし。しかれば、念仏もうすのみぞ、すえとおりたる大慈悲心にてそうろうべきと云々

(『歎異抄』第四条)

西本願寺ロサンゼルス別院はリトル東京コミュニティ・カウンシル(UIC)のメンバーです。この協議会はリトル東京の住人、ビジネスオーナー、宗教や文化、コミュニティに関わる団体からなる非営利の議会です。別院の代表としてこの協議会に参加するとともに、私は現在理事も務めさせていただいています。理事会、総会ともに月に一度開かれています。議題はとも多いので限られた時間で全てを取り扱うのはとても困難です。

リトル東京では様々なことが進行中で、この協議会の声はリトル東京の未来を左右するといっても過言ではありません。皆さんもお気づきと思いますが、別院の前ではリージョンナルコネクター事業としてメトロのゴールドラインの工事が行われています。また近接するマンダロープの開発についてはメトロと概ねの基本合意書が交わされ、近々工事が開始されます。さらに、ライトレールの西サンタアナ支線についてはアーテジアからスローン駅に限定する提案も出てきています。メトロとの協議ではユニオン駅まで結ぶことが当初確認されていた

ため、この代替案を受け入れることは難しく、議論が重ねられていきます。リトル東京は新線が地下鉄となるよう改めて強く訴えています。

こうした事業については協議会内で意見が割れることはほとんどありません。工事がリトル東京に及ぼす影響を最小限にし、コミュニティにとつて最善の道は何かを皆が一緒に考えているからです。しかしながら、前回の理事会および総会でリトル東京が抱えるホームレスの問題について話し合われた時は、他の議題と異なり、その立場によって意見が大きく分かれまわりました。それはホームレスとなった人々に寄り添う立場と、コロナ禍での不況で辛うじて事業を継続してきたビジネスオーナーや従業員の直面している不安との対立でした。とりわけトリミプラザと呼ばれる場所でホームレスとなった人々がテントを張って生活していることについては深刻な意見の対立がありました。

ロサンゼルス郡は子供も含めたホームレスの数が最も多い地域の一つです。二〇二〇年一月時点でロサンゼルス郡では六万七千人のホームレスが確認され、ダウンタウンのスキッドロウだけでも五千人が路上での生活を余儀なくされています。そしてこの問題は南カリフォルニア全体に広がっています。

総会ではリトル東京で商売をしている人々からホームレスの問題がいかに彼らのビジネスの妨害になっているか、という意見が聞かれました。またホームレスの人に地面に押し倒されたという被害を報告する人もいました。リトル東京の安全を管理してくれている「交番」の代表者からは、先月は三十一件の車上荒らしがあり、三件の薬物過剰摂取による死者があったと報告があり、その中には店の前で亡くなった人もいたとのことでした。彼は (三面へ)

【各ページ案内】

- 一頁 総合
二頁 「この話ご存じでしたか」
三頁 法話



【西カブスカウトより】

対面式のミーティングが再開しました！次のミーティングの詳細は私たちのフェイスブックページに載せていますので、こちらも是非フォローしてください。https://www.facebook.com/nishicubscouts

先月から鳥小屋の制作やパインウッズダービーの準備をテキパキと進めています。最近では、カブスカウト・ベアアーチェリーとフィッシャ

羅府別院理事長より



理事長 田端 パメラ

皆さまが健康で健やかな日々をお過ごしの中、この時報をご覧になられていることを念じます。

まず申し上げたいことは、いよいよ西別院の本堂で一堂に会してお勤めをすることができるようになりました。久しぶりに西での対面の会話は笑顔が絶えません。今や群や州の規制が解除される一方、私たちのお寺が安全を最優先にしていることは変わりありませんが、人との繋がりはかけがえのないものです。この日を迎えることができたのは、偏に西のコロナ感染症対策委員会が努力して下さったお陰であり、その結果、今日まで西別院の安全は守られてきました。

グを学んだことで、これらの習得が認められました。5才〜11才のお子様、カブの隊に興味はありませんか？是非一緒にカブスカウトで活動しましょう。



また、先日のサーモンボールドライブスルーを通じて西別院をご支援して下さい。皆様へは心より感謝申し上げます。これらのご支援は決して当然のものとして受け取るのではなく、非常に有り難いこととして受け取っております。数多くの団体の中から西別院の為に想い行事にご参加頂いたことには感謝の念に尽きません。重ねて、行事を裏から支えて下さったボランティアの方々にも感謝の意を表したいと思います。此度のファンドライザー行事は関わった全ての人々の貢献によって達成されました。合掌

【五月 六月のご法話のご案内】ハイブリッド...本堂がZoomのご参拝を選択できます。屋内の場合は、要ククチン接種もしくは陰性証明書の持参をお願いします。

母の日の集

- 五月八日 (日) 午前十時 (於ハイブリッド)
永代経祥月法要 (於ハイブリッド)
五月八日 (日) 午後一時 (於ハイブリッド)
宗祖降誕会及び初参り (於ハイブリッド)
五月十五日 (日) 午前十時
御講師 大内 祐真師(トレント仏教会) 日英

- メモリアルデーの集 (於ハイブリッド)
五月二十九日(日) 午前十時
メモリアルデーの墓参り
五月三十日 (日)
永代経祥月法要 於ハイブリッド
六月十二日 (日) 午後一時
南加教区仏教徒大会及び仏教婦人大会 (於 オレンジ郡仏教会)

- 六月二十五日(土) 午前九時
日曜学校卒業式 (於ハイブリッド)
六月二十六日(日) 午前十時
BEC仏教法話会 Introducing Buddhist Terminology with Cock-zai (於 \*西別院)
五月三十日 (土) 午前十時
BEC仏教法話会 実際に書いて味わう御文章 (於 \*オンライン)

- 五月十二、二十六日 (本) 午前十時
BEC仏教法話会 正信偈に聞く (於 \*オンライン)
五月三十一日 六月四 十八日 (土) 午前十時
BEC仏教法話会 Introducing Buddhist Terminology with Cock-zai (於 \*西別院)
五月七 十四 二十八日 六月四日 (土) 午前十時

- 日曜礼拝 (於ハイブリッド)
毎週日曜日 午前十時

# 【この話ご存知でしたか】増山栄子

## 翻訳 伊藤千鶴子

『本派本願寺ロスアンゼルス別院1965-1980』P.14より  
「L.A.本派本願寺仏教寺院の西メトロン」

西ジュニアメトロンから西メトロン、婦人会、BWAへの軌跡： 私たちのグループは1959年に婦人会のメンバーの玉利さん、山口さん、荒谷さんの協力を得て、英語を話す既婚女性が本派本願寺に興味をひくために組織されました。私たちは西ジュニアメトロンと呼ばれていました。荒谷としこ婦人が初代会長に就任しました。団体のメンバーは、ドロシー後藤、グレース、石谷、こだま、あきえ、エルソ、かながわ、メイベル、こだま、くまた、うめ、村上、めいこ、生塩、静子、やまもと、しずこ、やまがた、とよこ、よしもと、さなえ、つちや、ときこです。1979年、当時年間2ドルの会費に対して新年宴会の昼食会の会費が1ドル50セントだったことは少し滑稽なように聞こえます。

私たちのグループは、お寺と子供たちのための慈善活動に頻りに参加していました。それらは父母の日の昼食会、二世ウィークのバイビーショー、年間を通してお斎の準備を手伝ったり、ランチョ・ロス・アミーゴスの日本人患者を訪問したり、USの薬局組織の助けを借りて「Crusade on Cancer」の映画を後援したり、また Alpha Lofa Pt. (C)、別院の男子バスケットボールチームに「シャツを寄贈したり、敬老ホームの患者のためにだれ掛けを作ったりしました。他にもジュニアBWAや日曜学校の先生などから、さまざまな会議の昼食の準備をお願いされました。

私たちが最もやりがいのあったことの二つは、当時軍隊に所属していた別院出身の青年たちの為にクッキーを作る事でした。 私たちは15年以上にわたってBOAのメンバーを継続しています。

1966年、ジュニアメトロンとして南部地区婦人会連盟に加入し、そこでの活動にも参加するようになりました。長年にわたってダーナデイファンド募金を支援しており、その為に会議ごとに各メンバーから25セントを集めました。

ABAと協力して「F-Sarana-Sarana法要の支援、ピアノの寄付、新年会夕食の準備など、多くのイベントを開催しています。

活動資金の確保についてはお盆カーニバルで種類の販売や二世ウィーク祭りやワンタンを売ったり、モントレイパークの桜まつりでお寿司を提供したり、ホワイトエレファントセールのために品物を集めたりしました。

1974年6月、私たちは「ジュニア」と名乗ることを止め、以後は西メトロンの名称を用いるようになりました。それ以来、1975年から始まった文化刺繍（ししゅう）教室を財政面からサポートしたり、桃の節句と端午の節句の折には日本人形を展示し、日曜学校の生徒と保護者に対して軽食を提供しました。また1976年の二世ウィークでは、お寺に展示

を観に来てくださった方々に飲食の提供も行っていきます。ある時期に開教使の先生方が利用できる電子レンジが寄贈されました。新しい階下用のカーテンを新調するにあたって金銭的に支援しました。またある時には開教使の先生の奥様方（乗本 としこ夫人、井上 ふみえ夫人、太田 しょうこ夫人）のためにペビーシャワーを行いました。五百名が参加した今井泰通開教使の結婚の際の昼食会は私たちが担当しました。

1965年に新しいお寺を建てる際と会館を完成させる時には、あらゆる方法を用いてこれを援助しました。お弁当を用意して、鐘樓の献納を支援しました。

1966年、私たちはお寺のブライダルルームに必要な設備を提供し、お寺ですべての結婚式のディレクターを支援してきました。 コミュニティ活動の面に関しては、グループ旅行で運試し



〈写真①〉ジュニアメトロン、旧西別院の地下チャペルにて撮影、1957年

背後のお荘厳は大和ホールから移設されたもの。現在は西別院のウイステリアチャペルに設置されている。（前列に着席）せら、しず、いしはら、ローズ、みやかわ、エイミー、いわた、せつこ、ながもと、ミツキ、なかしま、やえこ、たむら、フェリス、しばた、しず、よしこ（中段）さかにわ、ケイ、不明、わたむら、ジョージ、もりおか、まきの、不明、不明、ますだ、としこ、こぼやし、ローズ（上段）まるやま氏？、不明、つぎだ、まりこ、よしむら、さなえ、くまた開教使、たなか、まえ、みなみ、きみえ、不明

をしにラスベガスに行つて勝った負けたの思い出と一緒に行った人たちと共有しました。また、会議などの場で私たちの連帯を示す為と同じ色のエプロンとドレスを制作しました。会員全員にはお祝賀が贈られます。毎年の特別な日曜学校サービスの際には司会進行を務め、出席者全員に軽食を提供してきました。

近年ではメンバーが代わる代わる調理の担当をすること、定期的に昼食会を催すことができています。これは非常に楽しい当番であることが後になって分かりました。

一年以上会長を務めた方は荒谷 としこ、生塩、静子、石谷、グレイス、ミッキー、永本、なかしま、やえこ、岩田、節子、佐々木、エミ子、もりおか、まきの、たむら、フェリス、リリー、中村、きし、よしこ、エイミ、宮川です。会長は、ほんだ、ゆりです。



〈写真②〉ジュニアメトロン、旧西別院の本堂にて、1959年

背後のお荘厳は現在の納骨堂に設置されている。（前列）きし、よしこ、なかた、まえ、やまぐち、フロレンスと息子のウィラード、ささき、えみこ、しばた、しず、なかしま、やえこ、いしはら、ローズ、もりおか、まきこ（後列）不明、かながわ、エルソ、たむら、フェリス、不明、いわた、せつこ、たけもと開教使、不明、つぎだ、まりこ、よしもと、さなえ、ますだ、としこ、不明、ながもと、ミッキー

最後に、後年の会長はチェリー、おきもととヘレン高田でした。西メトロンは63年冒頭に組織を解体したことで西仏教婦人会（BWA）と合流して、現在もお寺へご奉仕を続けています。先輩のご婦人方と今中心になって活動されているご婦人の皆様感謝いたします。

【感謝録】  
西図書館と資料室と寄贈品を提供して下さったリンダ、いしはまご一家、テリー、いとむらご一家、ミツツイー、しみず様に感謝の意を表したいと思います。



〈写真③〉西メトロン一宴会にて、1968年

（前列に着席）ミヤジ氏、ふくま夫人、あべ開教使、ギブス氏、ショー、ギブス（中段）わき、フロロ、よしだ、えつこ、いわた、せつこ、みやかわ、エイミー、やくら、とみ、いしはら、ローズ、ながい、まさこ、くりむら、みき、たなか、メイ、さかにわ、ケイ（上段）いずみ、ふじこ、くどう、アリス、高田、ヘレン、にしむら、あき、しばた、しず、まつだいら、のりこ夫人、にしむら、ヘレン

(一面続き)リトル東京に来る人たちはトリミプラザの駐車場に車を止めることを好まず、また安全に歩けないという不安からリトル東京に来ることすら躊躇う人も出てくるだろう、と言いました。

その一方でホームレスの人たちもつと思いやりをもって扱われるべきだ、と訴える別のビジネスオーナーの人たちもいました。その中の一人は仏教の理念を引き合いに出し、慈悲の心をもってホームレスの人たちと接するべきだ、と言いました。

私もロサンゼルスに住む一人として、また僧侶として、住む場所、食べ物、ヘルスケアなど私たちが普通に享受しているものが得られずに困窮している人たちに對し、何をすべきなのかを考えずにはいられません。私の叔父はよく「言うだけじゃダメだ。言ったことはきちんと実行しなさい。」と私に教えてくれました。

冒頭に紹介したのは『歎異抄』の第四条です。そこでは菩薩や出家の僧侶が修める「聖道門」と私たちが歩む「浄土門」の違いが説かれています。浄土門とは、良い行いや正しい道を修めようと努力すればするほど、自分の至らなさや不完全さが明らかになってきた時に、その自分の現実の姿にしっかりと立つことから開けてくる道です。煩惱にまみれた私たちは、どれほど真摯に取り組み努力したとしても、完全に自分の都合や思いから自由になることはありません。それは、私たちに純粋な善行や慈悲の実践は不可能である、ということであり、それが親鸞聖人の明らかになされた私たちの姿です。そして親鸞聖人をそうした人間の事実に見覚えしめたのが、浄土の教えであったのです。

私自身について考えた時、他の人の痛みや苦しみを我が事のように感じる時が確かにあります。それは私の中の慈悲の心が他の人の痛みと共に鳴った、ということかもしれません。その気持ちは自然と他者の苦しみを和らげるために何かをしたい、という衝動になります。けれども、実際にそのような状況に直面した時、例えばリトル東京のホームレスの人たちのテントの群れを目にした時、あるいはホームレスの人が近寄ってきて恵みを求めた時、私はその状況に圧倒され、かけるべき言葉も取るべき行動もわからなくなるのです。

私たちは誰もが思いやり深い人間でありたいと思えます。それはなにも仏教徒だからということではなく、誰もがこの社会の一員である限りにおいて、すべての人はその権利を尊重され、幸せが願われるべきである、と信じるからです。

けれども私たちが純粋に慈悲の実践に励もうとすればするほど、大きな障壁がぶつかってくるを得ません。しかも問題は障壁が外から来るものではなく、私たちの除くことのできない自己中心的なエゴであるということなのです。よい人でありたい、思いやりの深い人でありたいと思う、その願いは純粋であっても、私たちは意識しないような深いところで、やはり自分の思いを満たすことを優先してしまうのです。しかしながら、実はこの矛盾と限界に目覚めることが浄土真宗の道を歩む第一歩といえるのです。

どこまでも自分中心の思いの域を超えることがない私のあり方、言い換えれば自分の至らなさを自覚し、それをありのまま受け入れること、それが実は私たちが自由に解放する道である、ということを知っているのが浄土真宗の教えであると思うのです。

私たちは誰もが理想の自分の姿を描いています。その理想に近づいている間は有頂天になり、反対にその理想像から離れると絶望します。浄土真宗における解放とは、他ならぬ私たち自身が作り上げた理想、言い換えるなら妄念からの解放なのです。自らの愚かさに向き合い、ありのままの姿を受け入れる、それがまさに目覚めといえるでしょう。

私たちの人生は多くの人々、出来事、ものとの関わりの中で紡がれています。縁起がまさに私となつているので、そして私となつていいるあらゆる縁、そしてその事実を私たちに教えるはたらきを阿彌陀仏として私たちはいただいているのです。

そのはたらきに出会い、目覚めることが浄土真宗における行であるといえるかもしれません。だからこそ、その行の場は私たちが生きるまさにこの毎日であり、一瞬一瞬なのです。浄土真宗は私たちが倫理的な善人にしてくれる教えではありません。むしろ、どこまでいっても善人になり得ない私の姿を教える教えです。そしてその目覚めがそのまま、ありのままの姿で私たちが阿彌陀仏に受け止められているという事実への目覚めとなるのです。

現実の課題に向き合い悩むことが仏道であるからこそ、浄土真宗は一つの決まった答えを私たちに与えることはありませぬ。なにを考え、どう行動するかは、私たち一人ひとりに委ねられています。コミュニティにどのようなように関わるのか、ホームレスの人たちのためになるように、そして同時にビジネスをしている人たちやリトル東京に住む人たちのためにどのような活動をしていけばよいのか、それをそれぞれが考え、立場の違いを超えてお互いの声を聞きながら共に進んでいくことが大切なのではないかと思うのです。



【最近の別院の写真】

折り紙はお好きですか？しわを寄せずに綺麗に紙を折り込むのは意外と難しいです。西婦人会では折り紙のクラスを行っています。婦人会の活動に興味のある方は当会までお尋ねください。

「法味楽」味わう×楽しむ＝仏教



駐在開教使 村上 響

「広く、広く、もっと広く」

最近、私の先生のある一言を思い出しました。「広く、広く、もっと広く。これ般若心経の心なり」と。般若心経はご存じの通り、世に大変広く知れ渡っている仏教のお経です。誰でも一度は、「色即是空、空即是色(しきそくぜくう、くうそくぜしき)」のフレーズを耳にしたことがあるでしょう。英語圏ではHeart Sutraと訳されていますが、このEongとは心臓のことです。人体にとって心臓が必要不可欠な臓器でありますように、仏教では空という概念が重要な位置を占めています。

般若心経の「色即是空、空即是色」のフレーズに注目します。色とは私たちが認識する色や形を持つものたちの総体のことです。例えば、目の前の鉛筆や私たちの肉体は、絶え間なく変化を繰り返していますので、いずれは消滅し、やがて新しいものへと再構築されます。仏教は変化しない存在を認めませんから、全ての存在は色と言えらるでしょう。かたや空とは般若心経の文脈に沿ってごく簡単に述べれば、何事にも執着しない心のことで、執着心即ち煩惱でありますから、これらが無い状態は悟りと等しいと言えます。龍樹菩薩はこれらの概念を総括して、空とはからっぽや虚無を意図するものではなく、全ては一時的に関係を持ったり、離れたりを繰り返す性を空と呼びました。つまり、一つのご縁が結ばれるとすぐに先のご縁は消滅し、新しいご縁に姿を変えらると言った具合でしょうか。

では、先生が仰った「広く、広く…」というフレーズと、般若心経の空はどう関係するのでしょうか。これを考えた時、有限性を超えた無限との邂逅こそが空ではないかと思えました。先日、宇宙の広さを説明するビデオの締めくくりにテロップで以下の言葉が紹介されました。「宇宙に対する不思議と現実と注意を向けるほど、我々は破壊に対する興味をなくすだろう。」宇宙の広がりには無限と形容して良いほど広大な空間が広がっています。宇宙の広さからすれば、我々はあまりに小さく、銀河ですら取るに足らない大きさに過ぎません。宇宙の大きさに比べれば、文字通り私たちの日常の悩みがちっぽけに思える程宇宙は巨大な空間なのです。仮に執着心の原因が有限性から来る不足分を補うための渴望

の心であると再定義します。すると、無限という言葉が持つ魅力にそそれははしないでしょうか。悟りの視点では本来、事物は空として存在します。すなわち、隔てのない広がりた世界です。しかし、人間の持つ煩惱は自らの心を有限の枠に押し込めて、渴望の結果、自らが生み出した有りもしないゴースト(煩惱)によって我々は苦悩します。親鸞聖人はおっしゃいます。信心と念仏は表裏一体となつて、往生の証として念仏者の身におさまります。その想いをひらいて示せば、「解脱の光輪」はもなし。光輪かぶるものはみな 有無をはなるとのべたまふ 平等覚に帰命せよ」と表されます。「解脱の光輪」とは、阿彌陀様の光明のことです。この光に触れるものは、やがて有限の枠を超えて悟り一味に溶け合います。無限の南無阿彌陀仏にお任せせよとのことです。合掌

ありがとうございました！

サーモンボールラファウインドレイザー

昨年に引き続き、コロナ感染症の為に中止しているサーフ&ターフ募金会に代わって、サーモンボールの販売が今年三月五日に行われました。当日は昼過ぎから夕方にかけて雨が降る悪天候の中でしたが、ボランティアスタッフは各々の役割を勤め上げました。買って下さった皆様とスタッフのお陰で無事大きな募金会を一つ終えることができました。

